<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>Title</td>
<td>米国のI.W.W.運動の研究 (一) (一) I.W.W.研究の意義</td>
</tr>
<tr>
<td>Author(s)</td>
<td>米田 均太郎</td>
</tr>
<tr>
<td>Citation</td>
<td>経済論叢 (1919), 8(4): 441-459</td>
</tr>
<tr>
<td>Issue Date</td>
<td>1919-04</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="https://doi.org/10.14989/127517">https://doi.org/10.14989/127517</a></td>
</tr>
<tr>
<td>Right</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>Type</td>
<td>Departmental Bulletin Paper</td>
</tr>
<tr>
<td>Textversion</td>
<td>publisher</td>
</tr>
</tbody>
</table>

京都大学
居を際であるから、陸邦の労働運動に於て大に注意する必要はある。それは余を著し経然たる科学的興味の上から、社会学的米国のI.W.W.運動を研究し、夫れが現代労働運動の発達上又近代学研究の意義と有するに止まらず、我國の現状に於て直感的にも甚だ重要な意味を有するものと考えるべきである。

（二）I.W.W.と労働ナイフ会

先づ米国のI.W.W.運動の起源から考究し始めることとすルが、今米国に於てI.W.W.と称され、労働問題が組織される。而してこの運動を始めた頃には、労働者於ては革命的デモクラシズムの雰囲気として大に注意を引いて居たのである。然らに米国のI.W.W.は労働者の革命的デモクラシズムを輸入せるものであると考えたのである。併しそれに於て米国に於ける労働運動の歴史を深く研究しなければならぬものである。米国I.W.W.の研究に於ては、米国特有の産業の事情及び労働運動の歴史を深く研究しなければならない。
考察すれば、今日見る如くに I.W.W.運動が発達し遂げに必の如く、外國の革命的ソ・ザonnenの思想が其の影響を以て何等外國の労働運動の實行に思想の影響を及ぼす可きものでないと思われる。要するに米國の I.W.W.運動は単に米國の革命的ソ・ザonnenの思想の發達せるものに如く見るものも、又は出来るだけ外國の思想の影響を少なく見て之を説明せんとするも、失望を覚者である。故に今日見る如く、外國の革命的ソ・ザonnenの思想の影響を以て何等外國の労働運動の實行に思想の影響を及ぼす可きものでないと思われる。要するに、米國のI.W.W.運動が發達することには、米國のI.W.W.運動の起原を検究するに當て、先づ注意すべきはI.W.W.運動の起原を検究するに當て、先づ注意すべきは米國の革命的ソ・ザonnenの影響を以て見ようと思はれる。
何にして発生したのかを研究し、又夫々が如何にして革命的となったかを研究せねばならぬ。

米国西部の或地方に於て、I.W.W.の主領者が盛んに同盟組合を煽動して居った際、或新聞記

若し境遇の下に復活される労働ナイト合の運動に、外にとのもの々如く論じて居る人々を少

なく。併し此の如くI.W.W.運動を歴史的に「労働ナイト合の運動を結び付けて考察すること

は如何程正當であろうか。先づI.W.W.の歴史的顕著を明示すると云ふ見地から見て、労働ナイト

合の思想及び手段を研究して見よう。

米国に於ては千八九十年代の始め頃より、何らの形式の下に労働組合を結び合して、労働の勢

力を統一する必要は感ぜられ、而してそれ以前に種々なる労働合の設立が試みられ、其等の

諸団体の中で最も有力なるのは、千八六十七年に設立されると云ふ「クライスピンナイト会」

であった。是れも製紙工の間組織されるものにして、一時は會員四千人を数へ、有力なる労働団体と

なつたが、後々も種々ある理由によりて其の勢力を失なり、千八七十三年頃遂に消滅した。

略說 米国のI.W.W運動の研究 第八巻 異西巻 四四四、四四五。
労働組合は、労働者を代表して労働条件の改善等を図る組織である。労働者は、労働組合を通じて労働条件の改善を図る権利を有する。

労働組合は、労働者を代表して労働条件の改善等を図る組織である。労働者は、労働組合を通じて労働条件の改善を図る権利を有する。
I. 富ではなく産業的及び道徳的価値を以て、絶対的に人間の及及び経済的価値の真実なる標準となす。

II. 僧侶の生産する富の十分なる享楽、彼等の知力的、道徳的及び社会的価値を発達させる為め

に十分なる出願、副結の一切の利益及び歎しき等を彼等に確定させる為め、

者をして進歩しつつある文明の利益及び栄誉に寄競せしめること。

者をして進歩しつつある文明の利益及び栄誉に寄競せしめる為め、

面して此等の目的を達する手段として、先づ政府に対して同会の要求する一定の事項を列挙し、

次に又議会に対して同会の要求する一定の事項を列挙し、

する事項を挙けて居らが、夫れは共の如きものである。

I. 一種の協力的産業組織を設立すること。

II. 同等なる仕事に対して男女同様の質料を支給ししむこと。

III. 八時間以上の労働を一般に拒否することに、

IV. 労働時間の短縮すること、

V. 僧侶と僧侶との間に同情の紛争が拡がれ、又同盟組織が必要になされ得る為めに、

両者の間には起る一切の紛争を仲裁に附すを僧侶に勧告すること。

以上の諸項に於て考察に於て、『労働ナイト』会は別に革命的なる労働階級であつたとは思はれ

ない。もつとも共の質料制度を廃止せんとする點は、革命的性質を帯びて居ると見徹し得るに

欠きぱさる。
労働組合の労働者の精神について

労働者の精神について

労働者の精神について

労働者の精神について

労働者の精神について
視したるが為めである元々。スパイラルは、労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何なる労働者も、全て労働ナイトを増し、その歴史の中に左の如く述べて居る。即ち、世界に於ける如何ある
米国労働組合の意義とは大に異なる居るのであり、若者差別をもって単位として居る。熱練労働者の未熟労働者との差別を立てて今入会を許し、又人種の差別をもって居る。若者差別をもって単位として居る。熱練労働者の未熟労働者との差別を立てて今入会を許し、又人種の差別をもって単位として居る。
する・吾人は之を根本的に三種の類型に大別することが出来ると思う。其の一は労働者全體の共同の利益を圖ることを直ちに其の目的として組織されるる労働組合の類型にして。其の二は夫れの職業の利益を圖ることを直ちに其の目的として組織されるる労働組合の類型にして。其の三は或意味に於ては両者の中間に位すると見做し得られるものであるが、夫れ夫れ職業の利益を圖るものを其の直接の目的とさせされて居るものである。此等三種の労働組合の類型の中にて第一の類型のものは単に労働組合を稱せられ、第二の類型のものは特に職業組合を稱せられ、而して第三の類型のものは一般的労働組合と稱せられ、第二の類型のものは特に関西労働組合・労働者全體の共同の利益を圖る第一の類型のものに到り、而して第二の類型のものは特に関東労働組合を圖る第一の類型のものに到り、夫れは職業組合主義に反對して上げるものにして、其の直接の目的とさせるものに到り、而して労働者全體の共同の利益を圖ることを直ちに其の目的として組織されるる労働組合の類型にして。"
労働者ナイフ会**に類似する側面が**ある。面も搬家労働者全體の共同的利益を主張するのでなく、一産業の共通的利益を特に重要視すると云ふ観に於て、**労働者ナイフ会**の主義とは異なって居るのである。

以上述べ来りし處を総括して考へば、I.W.W.との労働ナイフ会とは共の用る運動手段に於て種々類似する處あるに係らず、共の主義観は精神上於て異なって居つて、前者は後者を腐活させたものと見ることも亦後者に於けると云ふ観に於て、I.W.W.は革命的な産業組合主義を共の精神とするものと見ることを亦えは、共の産業組合主義的であると言ふべきです。
米国における産業組合主義の発生

米国における産業組合主義の発生

米国における産業組合主義の発生は、19世紀末以降の産業史に典型的な現象として位置付けられている。当時、米国産業界は急速に発展し、労働者對於の権利と利益を追求する必要が高まりました。その結果、産業組合運動が活発化し、労働者がより一層の権利と利益を追求するための活動を展開しました。

(三) 米国における産業組合主義の発生

米国における産業組合主義の発生は、19世紀末以降の産業史に典型的な現象として位置付けられている。当時、米国産業界は急速に発展し、労働者對於の権利と利益を追求する必要が高まりました。その結果、産業組合運動が活発化し、労働者がより一層の権利と利益を追求するための活動を展開しました。
重要なる工業界に於ては否れが為めに労働者の状態はさだまりに変動するに至らなかった。而してかかる狀態の下にありては、共の組織運営に於て、高い会費と高い会費の為に変化を遂げたり、従って共の団結の薄弱な労働組合は、組織を基礎立てたてたのである。此くて「共同労働組合会」は、職業自則の原理を高調すること、（2）修繕と組織せる契約を厳格に守る精神を敬遠すること、（3）外に常の自由を認むること、（4）労働組合の組織の手を絶くして独立を確立すること、（5）職業組合の組織の努力を組織すること。

此くて「共同労働組合会」は職業組合の組織の手を絶くして独立を確立すること、（4）労働組合の組織の手を絶くして独立を確立すること、（5）職業組合の組織の努力を組織すること。
併し米国労働組合の政府の行政方針に基づいて発達し、米国の労働組合に於いて重大なる勢力を獲得し、かつ労働組合は決して工業者に於ては全く労働組合主義を異ならざる労働組合を組織せねばならなかった。而して茲に於て産業組合が存する形態に於ては事実上労働組合の存する形態に於ては事実上労働組合の存せねばならなかった。
者が彼等の経済的著明に於ける生死問題として、此の新らしい労働組合の形式を工夫したのである。

然に、産業組合が一度職業上組織されて見ると、夫れが職業運動の発達上重大なる意義を有するこの労働組合問題を解決する手段を発見したと考へ、更に産業組合の一層強固に結合せしめることを得ると言ふ難問を解決する傾向を如何にして除去し、以て労働者全體を一層職業的組織を高めるものなるか、を感じて来た。此くして産業組合の全體を高めるに當り、此の如き人々の努力なる労働組合の一主が、もって実行するに當り、産業組合主義を平和的、に於て事実の上に達せしがも如くにして生起させる産業組合主義を主張する。W-W。

産業組合主義は必ずしも革命的であるればならぬと云ふ洛のものでない。之を革命的のものとして実行するに當り、亦手和のものとして実行することも出来、産業組合主義の理論的及び実際の主張者となった。而して此の如き人々は米国労働組合会の會員中にも、亦労働組合会の會員中にも、更に諸国に於て新に労働組合

之を研究し、更に米国に於ける社会主義と労働組合との関係を研究せられならばと思う。